

晩 課

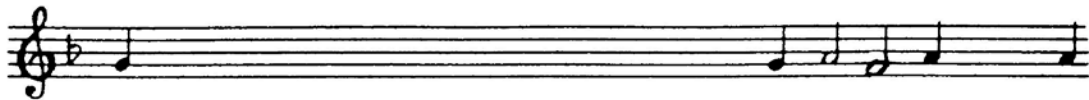
【首唱(103)聖詠】「我が霊や」、【大連禱】
【カフィズマ】第一段「悪人の謀」歌う、
【小連禱】

5 調

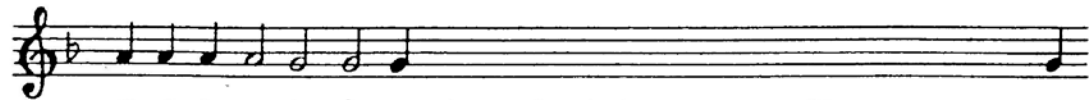
主よ、爾に籲ぶ 主日第5調

八調経卷2

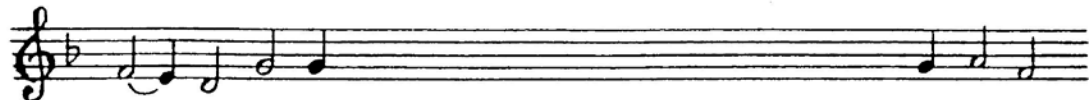
5~8調



主や汝によぶすみやかに我れにいたりたまえ主やわれに



ききたまえ主や汝に呼ぶすみやかに我れにいたりた



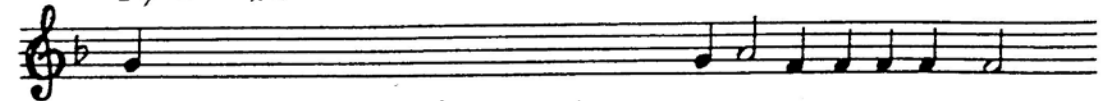
まえなんじに呼ぶとき我が祈りの声をいれたまえ



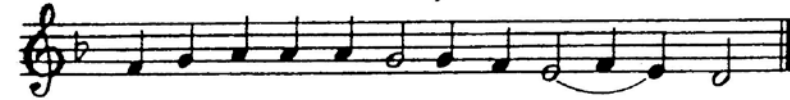
主やわれにききたまえねがわくは我がいのりは



香炉コウロの香カオりのごとく汝がかんばせの前にのほり



我が手をあぐるは暮クれのまつりのごとくいれられん



主やわれにききたまえ

聖詠「主よ、我が口に衛を置き・・・彼等は我より強ければなり。」まで省略

句、我が^{たましい}霊を獄より^{ひきだし}出して、我に^{なんじ}爾の名を^{さんえい}讚榮せしめ^{たま}給へ。

ハリストスよ、爾は^{なんじ}尊き^{とおと}十字架にて^{じゆうじか}悪魔を^{あくま}辱しめ、^{はずか}復活にて^{ふっかつ}罪の^{つみ}螫刺を^{はり}鈍くし我等を^{にぶ}死の門より^{われら}救ひ^し給へり。^{もん}獨生子よ、我等^{われら}爾を^{なんじ}讚榮^{さんえい}す。

句、爾恩を我に賜はん時、義人は我を環らん。

人類に復活を賜ふ主は羊の如く屠宰の爲に牽かれたり。地獄の君は之を畏れ、悲の門は擧げられたり、蓋光榮の王ハリストスは入りて、縛に在る者に出でよ、幽暗に在る者に顯れよと言へり。

句、主よ、我深き處より爾に呼ぶ。主よ、我が聲を聴き給へ。

大なる奇跡や、見えざる者の造成主は、人を愛するに因りて、身に苦を受け、不死の者は復活せり。諸民諸族來りて、之に伏拜せん、蓋其恵に因りて、我等は迷より脱れて、三位にして惟一なる神を歌ふを習へり。

又讚頌、アナトリイの作。同調。

句、願はくは爾の耳は我が禱の聲を聴き納れん。

我等暮の伏拜を爾暮れざる光に奉る、爾は世の季に、鏡に於けるが如く、身に藉りて世界に耀き、地獄にまで降り、彼處にある幽暗を破り、復活の光を諸民に顯し給へり。光を施す主よ、光榮は爾に歸す。

句、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん爲なり。

我等はハリストス我が救の首を讚頌す、蓋彼死より復活せしに、世界は迷より救はれたり、天使の軍は歡び、悪魔の誘は去り、墜ちたるアダムは起き、ディアウォルは空しくせられたり。

句、我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を待む。

番兵は不法の者より教えられたり、ハリストスの復活を匿せ、銀を受けて云へ、我等が寝ねたる時、死者は墓より竊まれたりと。誰か之を見たる、誰か何時か死者の竊まれしを聞きたる、況や其香料を傳られ、裸體になり、斂葬の衣を墓に遺したるをや。イウデヤ人よ、惑ふ毋れ、諸預言者の言を學びて、彼が實に世界の贖罪者及び全能者なるを悟れ。

句、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

地獄を虜に、死を滅しし主、尊き十字架にて世界を照しし我が救世主よ、我等を憐み給へ。

又生神女の讚頌、アモレイのパワエルの作。第五調。

句、願はくはイスライリは主を恃まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼はイスライリを其悉くの不法より贖はん。

至淨なる者よ、爾は諸造物より最高き者にして、實にヘルウィムの如き寶座と爲れり、蓋神の言は我等の像を興さんと欲して爾の内に入り、身を以て爾より出でて、我等の爲に十字架の苦を受けて、神として、我等の變ぜられたる性、曾て定罪せられし者に復活を賜へり。故に神の母よ、我等は爾の子を造成主として、彼に審判の時に我等に赦免と矜憐とを賜はんことを祈る。

句、萬民よ、主を讚め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讚めよ。

潔き神の母よ、我何を以て爾の至榮なる教會を稱せんか、エデムの園とせん、ノイの舟、即神の爲に王たる司祭班、聖なる人民、ハリストス我が神の會を救ひし者とせん。爾をモイセイの約櫃に譬へん、其内に贖罪所及び華を生ぜし杖あり、燈臺、「マンナ」の壺、及び金の香爐あり、凡の信者は之に趨り附きて、大なる憐を求め得るなり。

句、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

獨冀望を失ひし者の冀望、佑助なき者の爲に備はりたる佑助、仁慈を施す主イイスを生子し潔き者よ、今我が劣弱を憐み、我が思情に傷感を與へ、我が涙の流を以て我が罪の淵を潤らし、我が無量の愆の暴風を鎮め、我が亂れたる心を神聖なる平穩に充てて、ハリストスに我が諸罪の全き赦を賜はんことを祈り給へ。

(「光榮は」以下の楽譜は次のページ)

光榮は父と子と聖神に帰すいまもいつも世世にアミン

むかしてくれないのうみにて婚姻を知らざる嫁の象記る
ゴイン ヨメ カガ シ

されたりかしこにはモイセイ水をわかつものここには

がうリイル させきにつとむるものなりかの時イズライリは

足をぬらさずして深みをあゆみいま童貞女はたねなくして
フカ

ハリスを生めり海はイズライリの渡りし後もとのまま通ら
ワタ トオ

れずきずなきものはエムヌイルを生みし後もとのまま玷なし
ウ ノチ ゼズ



◇「聖にして福たる」を歌う

→通常部分 (P7/8「聖にして福たる」へ戻る

【スポタのポロキメン】(6調) 第92聖詠1—5

重連禱

誦経「主や我等を守り」

増連禱

(増連禱が終わったら)

5 調 挿句のスティヒラ

挿句に主日の讃頌、第五調。

爾身を取りたれども、天を離れざりし救世主ハリストスを歌の聲を以て讃め揚ぐ。蓋爾は人を愛する主なるによりて、我が族の爲に十字架と死とを受けて、地獄の門を破り、三日目に復活して、我等の靈を救ひ給へり。

又讃頌

句、主は主たり、彼は威嚴を衣たり

生を施す主よ、爾は脅を刺されて、衆人の爲に赦免と、生命と、拯救とを流し、身を以て死を受けて、我等に不死を賜ひ、墓に入りて我等を釋き、神として己と偕に至榮に復活せしめ給へり。故に我等呼ぶ、人を愛する主よ、光榮は爾に歸す。

句、故に世界は堅固にして動かざらん。

人を愛する主よ、爾が十字架に釘せらるると地獄に降ることとは奇妙なり、蓋爾は地獄を虜にして、古世よりの俘囚を神として己と偕に至榮に復活せしめ、樂園を啓きて、彼等を其中に入れ給へり。故に爾の三日目の復活を讃榮する我等にも罪の洗淨を與へて、樂園に居る者と爲らしめ給へ、爾は獨仁慈

なる主なればなり。

句、主よ、聖徳は爾の家に屬して永遠に至らん。

我等の爲に身にて苦を受け、三日目に死より復活せし仁愛の主よ、我が肉欲を醫し、我等を甚しき諸罪より起して救ひ給へ。

光榮、今も、生神女讃詞。

最尊き童貞女よ、爾は殿及び門なり、宮及び王の寶座なり。我が贖罪主ハリストス、義の日たる主は其手を以て己の像に従ひて造りし者を照さんと欲して、爾に依りて闇冥に眠る者に現れ給へり。故に讃め歌はるる者よ、彼の前に母の勇敢を獲たる者として、我等の靈の救はれんことを恒に祈り給へ。

→通常部分 P10「シメオンの祝文」へ戻る

「聖三祝文」「至聖三者」「天主經」

司祭 蓋国と権能と光榮は爾父と子と聖神[°]に歸す、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」

「生神童貞女や、慶べよ」

「願わくは主の名は崇めほめられ……」

早 課

来たれ…、【六段の聖詠】【大連禱】に続いて

<カフィズマ、セダレンは省略>

5 調

主は神なり、主日トロパリ

主は神なり我等を照せり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる、

(第1句) 主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして其憐は世世にあればなり、

(第2句) 彼等我を囲み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり、

(第3句) 我死せず、猶生きて主の行ふ所を伝へん、

(第4句) 工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす、

主はかみなり我等を照らせり主の名によって来たる

ものはあがめほめらる 信者やちちとせいしんと

ともに始めなきことばわが救いのために 童てい女ヨ

より生まれしものをほめ歌うて拝むべしかれあまじ

てその身にて十字架にのぼり死をしのびその光栄の

ふくかつにて死せしものを復活せしめたまえばなり

→通常部分 P15 【ポリエレイ】「主の名を讃め揚げよ」

<ポリエレイ後のセダレン、ネポロチニ省略>

【復活のエフロギタリア】「主や爾は崇め讃める」

【小連禱】【アンティフォン】 4 調

5 調

【アンティフォン】

品第詞、第五調。第一倡和詞。（毎句復唱す）

我が救世主よ、我憂の中にダウイドの如く爾に歌う、我が靈を欺騙の舌より免れしめ給へ。野に居る者の生命は福なり、彼等は神聖なる愛に勵まざる。

光栄（今も）

聖神にて見ゆると見えざる者は悉く保たる、彼は實に聖三者の一にして、全能の主なればなり。今も、

同上。

アンティフォン
第二 倡和詞

たましい 霊よ、やまのぼらん、かしこゆ 彼處に往け、けだしたすけ 蓋助は彼處よりきたる。

ハリストスよ、ねがはくは 爾の右の手は我にも觸れて、およそよこしま 凡の邪曲より我を護らん。

光榮

せいしん 聖神に向ひて讚美して曰はん、なんじ 爾は神なり、いのち 生命なり、あい 愛なり、ひかり 光なり、せいち 睿知なり、なんじ 爾は仁慈なり、なんじ 爾はよよおう 今も、同上。

アンティフォン
第三 倡和詞

ひとわれ 人我に向ひて、しゅの家 主の家に往かんと云ふ時、われおおくの喜びに 我多くの喜びに盈てられて、いのり 祈を獻ぐ。

ダウイドの家 到るべき事は行はる、けだしひ 蓋火は彼處に、およそ 凡の耻づべき心を焚く。

光榮

せいしん 聖神には生命を施す権位あり、凡ての生物は彼を以て活かさる、ちちおよび言を以てするが如し。今も、同上。

☆提綱、第5調

しゅわが神よ、起きて 爾の手を挙げよ、なんじよよおう 爾世の王なればなり。

句、しゅわが心 我心を盡して 爾を讚め揚げ、なんじ 爾が悉くの奇蹟を傳へん。

Zm 5調

主我が神よ、起きて 爾の手を 挙げよ

爾 世の 王 なれば なり

→通常部分 P20

【福音の読み】

【福音後のスティヒラ】「ハリストスの復活を見て」

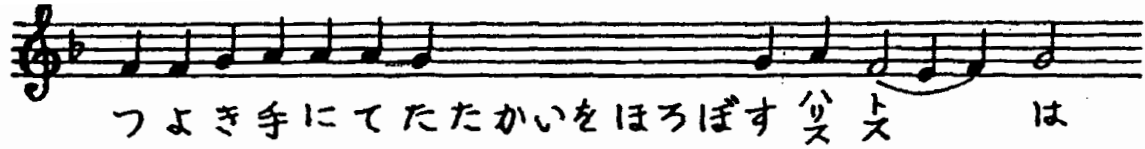
輔祭 「神よ爾の大なる憐れみによって」「主憐れめよ」12回

5 調 カノン

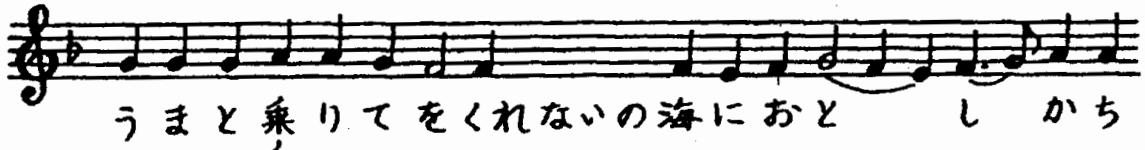
主日のカノン、第5調 <第1のカノン(復活)のみ、第2(十字架復活)、第3(生神女)は省略>

第一歌頌

イルモス、つよて 強き手にて 戦を滅す 爾を滅すハリストスは馬と騎者とを 紅の海に落とし、凱歌を歌ふイズライリを救ひ給へり。



つよき手にてたたかいをほろぼす ハ ト ハ



うまと乗りてをくれないの海におと シ カ チ



うたをうと イ ラ リ を す く い た ま え り

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストスよ、棘を生ずるエウレイの會は爾恩主に母たる愛を守らずして、棘を爾原祖の棘の禁戒を釋く者に冠せたり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す

生命を賜ふハリストス、罪なき主よ、爾は傾きて我筈に陥りし者を起し、朽壞に與らざる者にして我が悪臭の朽壞を忍びて、我を神の性の香料にて薫らせ給へり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン

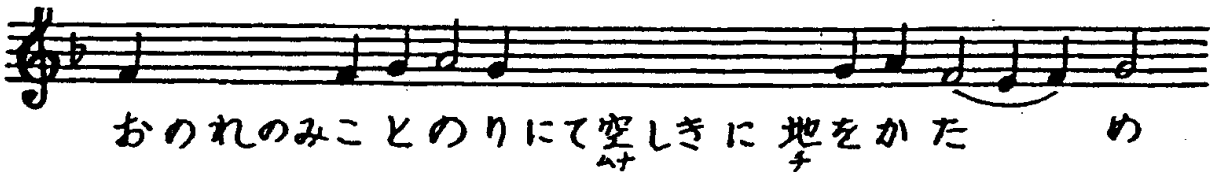
生神女讃詞

詛は釋かれ、悲は息みたり、蓋祝福せられし童貞女、恩寵を蒙れる者は四極の爲に祝福たるハリストスを花の如く生じて、信者の爲に喜を耀かし給へり。

<十字架復活のカノン生神女のカノン省略>

第三歌頌

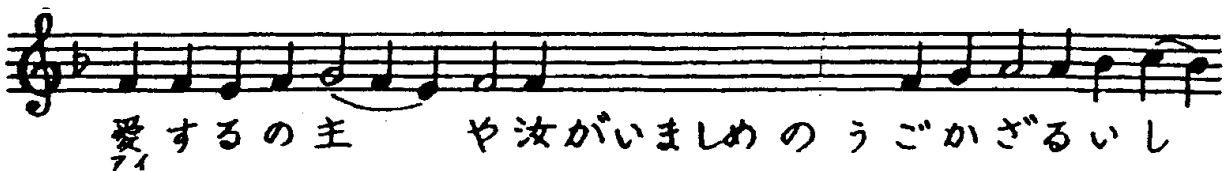
イルモス、己の命にて虚しき處に地を固め、保ち難く重き者を懸けしハリストス、獨仁慈にして人を愛する主よ、爾が誠の動かざる石に爾の教會を堅く立て給へ。(楽譜は次ページ)



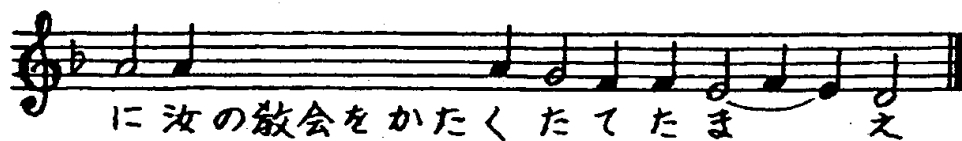
おのれのみことのりにて空しきに地をかた メ チ め



保ちがたく重きものをかけし ハ ト ハ 一人仁慈にして人を



愛するの主 ア イ ヤ 汝がいましめのうごかざるいし



に汝の教會をかたくたてたま ハ ト ハ え

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す

ハリストスよ、恩を知らざるイズライリの諸子、磐より蜜を吮ひし者は爾野にて奇跡を行ひし主に膽を捧げ、「マンナ」の恩に代へて醗を酬いたり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す

昔光れる雲に覆はれたる者は生命たるハリストスを墓に置きたり、然れども彼は己の權を以て復活して、上より衆信者に奥密に蔭へる聖神の光照を賜へり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン

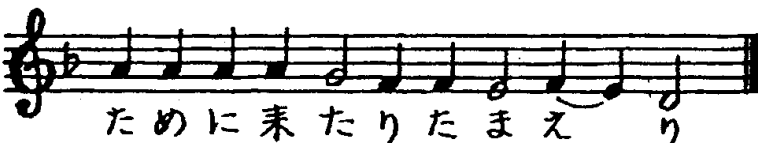
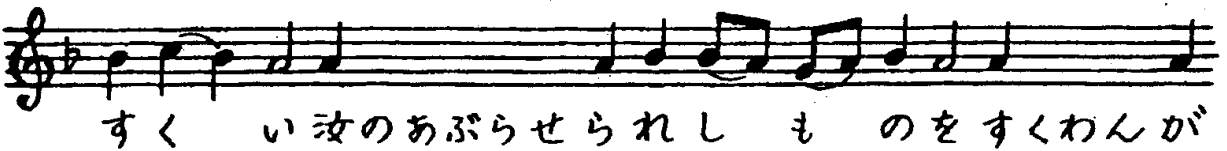
生神女讃詞

神の母よ、爾は婚姻に與らず、母の産苦を知らずして、永在の父より輝きし者を生み給へり。故に我等は正しく爾を生神女と傳ふ、身を取りし言を生みたればなり。

◇小連禱、(セダレンは省略)

第四歌頌

イルモス、ハリストスよ、アウワクムは先知の目にて爾が神妙の謙遜を悟り、戦きて爾に呼べり、爾の民を救ひ、爾の膏つけられし者を救はん爲に來り給へり。(楽譜は次ページ)



附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す

仁慈なる主よ、爾は木を以てメルラの最苦き水を甘くして、罪の味を滅す爾の至淨なる十字架を形を以て預象し給へり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す

我が救世主よ、爾は智識の木に代へて十字架、甘き食に代へて膽を受け、死の朽壞に代へて爾の神聖なる血を流し給へり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン

生神女讃詞

爾は婚姻に與らずして、潔く胎内に孕み、産苦なく身にて神を生み、生みて後童貞女として護られたり。

第五歌頌

イルモス、光を衣の如く衣る者よ、我爾に朝の禱を奉りて爾に呼ぶ、ハリストスよ、我が昧まされし靈を照し給へ、爾は獨仁慈の主なればなり。(楽譜は次ページ)

5) 

ひかりを衣のごとく衣るもの やわれ汝に朝の
コロ キ

祈りをたてまつりて汝に呼ぶ ハ リ ス ト ス ヤ

わがくらまされしたましいをてらしたま え汝はひとり

仁慈の主なればなり リ

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す

光榮の主は謙卑の形に於て甘じて辱かしめられて木に懸る、我等の爲に神聖なる光榮の事を言ひ難く慮るに因りてなり

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す

ハリストスよ、爾は朽つるなく身にて死の朽壞を嘗め、三日目に墓より輝き出でて、我に不朽を衣せ給へり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン

生神女讃詞

生神女よ、爾は我等の爲に稱義及び贖罪たるハリストスを種なく生みて、原祖の性を詛より釋き給へり。

第六歌頌

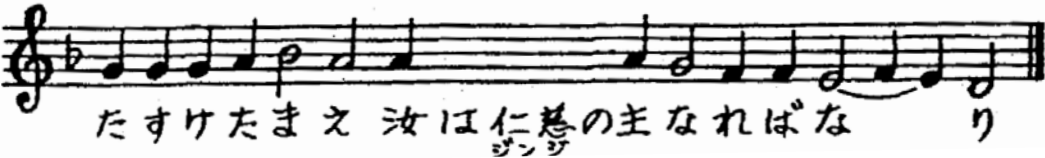
イルモス、主宰ハリストスよ、靈を壞る颶風に荒らさるる慾の海を鎮めて、我を淪滅より援け給へ、爾は仁慈の主なればなり。



主さいふス やた ましいをやぶ るあらしに



あらざるよくのうみをしずめてわれをほろびより



たすけたまえ 汝は仁慈の主なればなり

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す

主宰ハリストスよ、禁ぜられたる糧を食して、朽壞に陥りし原祖は爾の苦に因りて生命に升せられたり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す

主宰ハリストスよ、爾は生命にして地獄に降り、朽壞せしめし者の爲に朽壞と爲りて、朽壞に由りて復活を流し給へり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン

生神女讃詞

童貞女は生めり、生みて後實に潔き者として止まれり、己の手に萬物を持つ主を抱きし童貞女母なればなり。

◇小連禱

小讃詞、第五調。

我が救世主、人を愛する主よ、爾は地獄に降り、全能者として其門を壞り造成主として死者を己と偕に復活せしめ、死の刺を折き、アダムを詛より釋き給へり。故に我等皆呼ぶ、主よ、我等を救ひ給へ。

<同讃詞省略>

第七歌頌

イルモス、尊まるる先祖の主は焰を滅し、少者を涼しくせり、彼等心を合せて、神よ、爾は崇め讃めらると歌へばなり。(楽譜は次ページ)

ととまるる先祖の主 はほのおを消し少者
エンソ ケ シヤ

をすすしうせり彼等は心をあわせてなんじはあがめ

ほめらるとうたえばなり

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す

爾は身に蔽はれて、之を釣の餌として、爾の神たる力を以て蛇を釣り、神よ、爾は崇め讃めらると歌ふ者を升せ給へり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す

大地の通り難き固体を造りし容れられぬ主は地中に穿ちたる墓に身にて藏めらる。我等皆彼に歌ふ、神よ、爾は崇め讃めらる。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン

生神女讃詞

純潔なる者よ、爾は二性に於て一位たる身を取りし神を生み給へり。我等皆彼に歌ふ、神よ、爾は崇め讃めらる。

第八歌頌

イルモス、少者は爐に在りて爾萬物を造りし主の前に全世界の詠隊と爲りて歌へり、悉くの造物は主を歌ひて、萬世に崇め讃めよ。

少者はいろりにありて汝万物を造りし主のま
パンテ

えに全世界の詠隊となつてうたえりことごと
エイ ライ

くの造物は主をうとうて世世にあがめほめよ
ザクアツ

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す

ハリストス、爾は自由なる救の苦の爵の爲に、之を不自由なる者の如くにして祈れり、各二の性に屬する二の望を世世に有てばなり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す

ハリストスよ、爾の全功なる降臨に因りて辱かしめられたる地獄は古世より誘惑を以て殺しし者を悉く吐き出せり。彼等爾を萬世に崇め讃む。

父と子と聖神の一なる神を讃め揚げん、今も何時も世世にアミン

生神女讃詞

童貞女よ、爾智慧を超えて神の言に因りて主を生みて童貞女に止まりし者を我等造物皆讃頌して、萬世に崇め讃む。

◇次ぎて生神女の歌を歌ふ。

我が心は主を崇め、我が霊は神我が救主を悦ぶ。

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずに神ことばを生みし実の生神女たる爾を崇め讃む。

第2句 その婢の卑しきを願み給へり、今より萬世我を福なりと言はん、

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え……

第3句 権能を持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、其の名は聖なり、其の憐れみは世世 彼を畏るる者に臨まん

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え……

第4句 其の肘の力を表して、心の驕れるものを散らし給へり、

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え……

第5句 権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、飢うる者を善に飽かせ、富める者をむなしく帰らせ給へり。

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え……

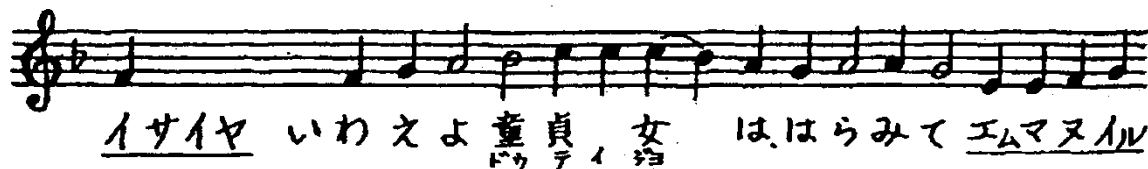
第6句 其の僕、イズライリを納れて、我が先祖に告げしが如く、

アウラムと其の裔を世世に憐れむ事を記憶し給へり、

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え……

第九歌頌

イルモス、イサイヤ祝へよ、童貞女は孕みて、子エムマヌイル、神及び人なる者を生めり、其名は東。我等彼を崇めて、童貞女を讃め揚ぐ。

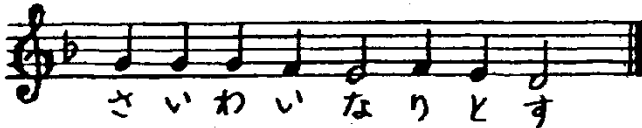




神と人となるものを生なめめ りその名はひが



しわれらは彼れをあがめめ て童てい女をを



さいわいなりとす

附唱、主しゆよ、光榮こうえいは爾なんじの聖せいなる復活ふっかつに歸きす

主宰しゆさいハリストスよ、爾なんじは陥おちいりし人ひとを童貞女どうていじよの胎内たいないより受うけて、全まったく之これに合あわせられたり、惟ただ一ひとつの罪つみにも與あずからざりき。爾なんじは己おのれの至淨しじようなる苦くるしみを以もつて全まったき人ひとを朽壞きゆうかいより釋とき給たまへり。

附唱、主しゆよ、光榮こうえいは爾なんじの聖せいなる復活ふっかつに歸きす

主宰しゆさいハリストスよ、爾なんじの至淨しじようにして生いのちを施ほどこす脅わきより流ながれし神聖しんせいなる血ちに由よりて、偶像ぐうざうの祭まつりは息やみ、全地ぜんちは爾なんじに讚美さんびの祭まつりを獻けんず。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン

生神女讚詞

純潔じゆんけつ無玷むてんなる少女しょうじよよ、爾なんじの生うみし者ものは無形むけいの神かみに非あらず、亦また常つねの人ひとに非あらず、即すなわち完全かんぜんなる人ひとにして、實じつに完全かんぜんなる神かみなり。我等われら彼かれを父ちち及びおよび聖神せいしんと偕ともに崇あがめ讚ほむ。

→通常部分へ戻る P29

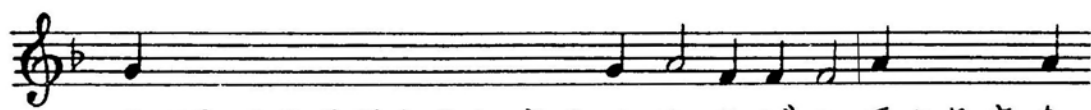
◇ 小聯禱

「主我等の神は聖なり」

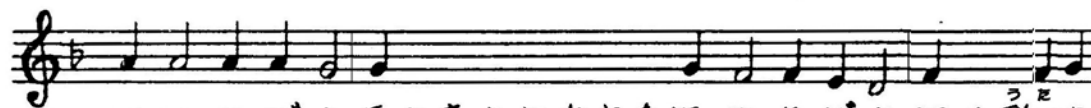
【差遣詞】

5 調

【讃揚歌とスティヒラ】



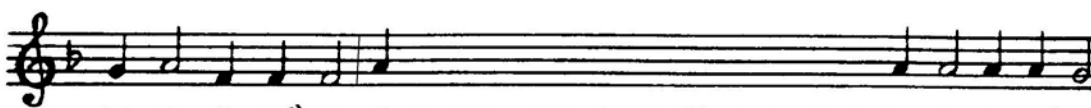
およそいきあるものは主をほめあげよ天より主を



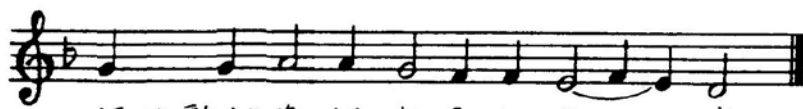
ほめあげよ至イと高きにかれをほめあげよほめ歌うたは



なんじかみにきすそのことごとくの神使かみやかれを



ほめあげよそのことごとくの軍いやかれをほめあげよ



ほめ歌はなんじかみにきす

→通常部分 P31 に戻る 【大頌栄】を歌う

【定規のトロパリ】

【重連祷、増連祷】 早課の終わり。発放詞。

一時課

<一時課の変更箇所は、トロパリ、コンダクのみ>

晩 課

【首唱(103)聖詠】「我が霊や」、【大連禱】

【カフィズマ】第一段「悪人の謀」歌う、

【小連禱】

6 調

主よ、爾に籲ぶ、主日第6調。〔時課経 P182〕

主や汝に呼ぶすみやかに我れに至りたまえ 主やわれに聞
きたま え主や汝に呼ぶすみやかに我れに至りたま え
汝に呼ぶとき我が祈りの声をいれたま え主やわれに聞き
たま えねがわくは我が祈りは香炉の香りのごとく 汝が
かんばせの前にのぼり 我が手をあぐるは暮れの祭のごとく
いれられん主やわれにききたま え

<時課経 P180「主や我が口に」～P183「…強ければなり」まで省略>

誦経 句、我が霊を獄より引き出して、我に爾の名を讚榮せしめ給へ。
 地獄に勝つハリストスよ、爾は十字架に上れり、死者の中に自由なる者、己の光より生命を流す者として、死の幽暗に坐する者を己と偕に復活せしめん爲なり。全能の救世主よ、我等を憐み給へ。
 句、爾恩を我に賜はん時、義人は我を環らん。
 今ハリストスは死を滅して、嘗て言ひし如く復活し、世界に歡喜を賜へり、我等皆籲びて斯く歌はん爲なり、生命の泉、近づき難き光、全能の救世主よ、我等を憐み給へ。

句、主よ、我深き處より爾に呼ぶ。主よ、我が聲を聴き給へ。

主よ、我等罪人何處に爾 悉くの造物に居る者を避けん、天には爾 親ら住む、地獄には爾 死を滅せり、海の深處に入らんか、主宰よ、彼處には爾の手あり。我等爾に趨り付き、爾に伏拜して禱る、死より復活せし主よ、我等を憐み給へ。

又讚頌、アナトリーの作。同調。

句、願はくは爾の耳は我が禱の聲を聴き納れん。

ハリストスよ、我等爾の十字架を以て誇と爲し、爾の復活を歌ひて崇め讃む、爾は我等の神にして、我等爾の外に他の神を識らざればなり。

句、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まらん爲なり。

我等常に主を崇め讃めて、彼の復活を歌ふ、其十字架を忍びて死を以て死を滅ししに因る。

句、我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を侍む。

主よ、光榮は爾の力に歸す、蓋爾は死の權を有つ者を空しくし、爾の十字架を以て我等を新にして、我等に生命と不朽とを賜へり。

句、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

主よ、爾の葬は地獄の桎梏を壊り、死よりの復活は世界を照せり。主よ、光榮は爾に歸す。

又生神女の讚頌、アモレイのパワエルの作。第三調。

句、願はくはイズライリは主を待まん、蓋 憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼はイズライリを其悉くの不法より贖はん。

至りて無玷なる童貞女よ、我が體の劣弱、靈の苦惱、心の憂愁を見て、我に神聖なる眷顧を得しめ給へ。祈る、爾の熱切なる祈禱を以て我を救ひ給へ。

句、萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ。

女宰よ、我諸罪を以て衆人に超えたり。祈る、潔き童貞女よ、其多きを潔めて、爾の子及び神の將來の審判に於て我に慈憐を蒙むるを得しめ給へ。

句、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

潔き者よ、我爾を呼ぶ者の諸罪の多きを潔めて、爾の祈禱の劍を以て我が愆の厲しき動搖を斷ち給へ、我が信と愛とを以て爾の種なき産を歌はん爲なり。

光栄は父と子と聖神に帰す今もいつも世世にアミン

至聖なる童貞女や誰か汝を福なりと言わざらんや

誰か汝の至つて清き産を歌わざらんや世のなき先に父

より光る独生の子は汝清きものより言いがたく身を取りて

出で本性の神は我等の為に本性の人となれり

その位一つにして相分かれずその性二つにして相失なわす

清くして至つて福なるものや我がたましいの憐れみを

こうむらんことを彼にいのりたまえ

◇「聖にして福たる」を歌う

→通常部分 (P7/8「聖にして福たる」へ戻る

【スポタのポロキメン】(6調) 第92聖詠1-5

重連禱

誦経「主や我等を守り」

増連禱

(増連禱が終わったら)

6 調

挿句のスティヒラ

○挿句に主日の讃頌、第六調。

ハリストス救世主よ、諸天使は天に於て爾の復活を歌ふ。我等にも地に於て潔き心を以て爾を讃頌するに堪へさせ給へ。

スティヒラ
他の讃頌

句、主は王たり、彼は威嚴を衣たり。

爾は全能の神たるに因りて、銅の門を破り、地獄の柱を折きて、陥りたる人の族を復活せしめ給へり。故に我等も同心に呼ぶ、死より復活せし主よ、光榮は爾に歸す。

句、故に世界は堅固にして動かざらん。

ハリストスは我等の古の朽壞を改めんと欲して、十字架に釘せられ、墓に置かれたり。攜香女は涙と共に彼を尋ねて、泣きて曰へり、哀しい哉衆人の救世主よ、如何に爾は墓に居るを甘じたる、居るを甘じて如何に盗まれたる、如何に移されたる、何の處か爾の生命を施す肉體を匿したる、然れども主宰よ、爾が約せし如く、我等に現れて、我等の涕泣を慰め給へ。斯く泣ける時天使彼等に呼べり、涙を止めて使徒に告げよ、主は復活して、世界に潔淨と大なる憐とを賜へり。

句、主よ、聖徳は爾の家に屬して永遠に至らん。

ハリストスよ、爾は欲せし如く十字架に釘せられ、爾の葬にて死を虜にし、神として三日目に光榮を以て復活して、世界に終なき生命と大なる憐とを賜へり。

光榮、今も、生神女讃詞。

至淨なる者よ、私の造成者及び贖罪者ハリストス主は、我を衣て、爾の胎より出でて、アダムの初の罪より解き給へり。故に無玷の者よ、我等爾、實に神の母及び童貞女たる者に黙さずして天使の如くに呼ぶ、慶べ、女宰、我等の靈の轉達、帡幪、及び拯救よ、慶べ。 ◇「主宰よ、今爾の言に循ひて」。

→通常部分 P10 「シメオンの祝文」へ戻る

「聖三祝文」「至聖三者」「天主經」

司祭 ^{けだし} 蓋国と権能と光荣は爾父と子と聖神[°]に帰す、今も何時も世世に、
 (詠) 「アミン」
 「生神童貞女や、慶べよ」
 「願わくは主の名は崇めほめられ……」

早 課

来たれ…、【六段の聖詠】【大連禱】に続いて
 <カフィズマ、セダレンは省略>

6 調 主は神なり、主日トロパリ

主は神なり我等を照せり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる、
 (第1句) 主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして其憐は世世にあればなり、
 (第2句) 彼等我を囲み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり、
 (第3句) 我死せず、猶生きて主の行ふ所を伝へん、
 (第4句) 工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす、

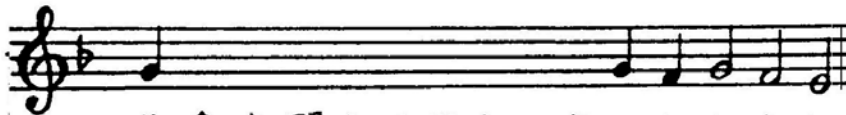
主は神なり我等を照らせり主の名によって来たるものは
 あがめほめらる

6調主日トロパリ

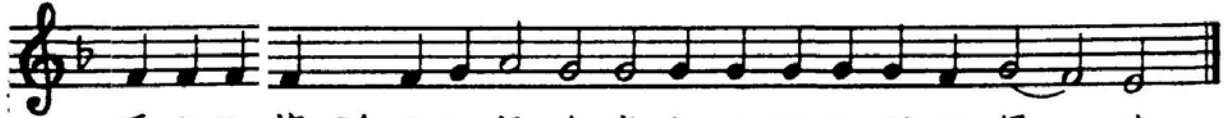
神使の軍、汝の墓にあらわれしに 奮兵死せるもののごとし
シン シン ハカ シン

マリヤ墓に立ちて汝のいさぎよき 体をたずねり
ハカ ヲ カラダ

汝は地獄にいざなわれずして地獄をとりこにし
ジゴク ジゴク



生命を賜うて処女にあいたまえり
イノチヲモ シヨウメ



死より復活せし主や光えいはなんじに帰す

→通常部分 P15 【ポリエレイ】「主の名を讃め揚げよ」

<ポリエレイ後のセダレン、ネポロチニ省略>

【復活のエフロギタリア】「主や爾は崇め讃める」

【小連禱】【アンティフォン】 4 調

6 調

【アンティフォン】

品第詞、第六調。第一倡和詞

(毎句復唱す)

言よ、我目を天に爾に擧ぐ、我を恵みて、爾の爲に生きるを賜へ。

言よ、我等賤しき者を憐みて、爾の用に適する器と爲し給へ。

光榮、(今も)

聖神には救の基備れり、彼堪ふる者に嘘けば、速に之を地より擧げ、之を飛ばしめ、之を長ぜしめて、上にせ給ふ。

今も、同上。 以下省略

第二倡和詞

若し主我等の中にあらずば、我等誰も敵の攻撃に勝つこと能はざらん、蓋勝つ者は此處より擧げらる。

言よ、願はくは我の靈は小禽の如く彼等の齒にて捕はれざらん、嗚呼哀しい哉、我罪を嗜む者は如何にして敵より脱るるを得ん。

光榮

聖神より衆人に成聖、慈恵、知識、平安、并に降福は賜はる、蓋彼は父及び言と等しく行動する者なり。

今も、同上。

第三倡和詞

主を頼む者は敵彼等を懼れ、衆人は奇とす、蓋彼等は上を仰ぎ見る。

救世主よ、義なる嗣業は爾を扶助者と有ちて、己の手を不法に伸べず。

光榮

聖神の權柄は萬有にあり、上なる軍は下なる凡の呼吸ある者と偕に彼に伏拜す。

今も、同上。

提綱、第6調

主よ、爾の力を興し、來りて我等を救ひ給へ。

句、イズライリの牧者よ、耳を傾けよ、イオシフを羊の如く導く者よ、己を顯せ。



→通常部分 P20

【福音の読み】

【福音後のステヒラ】「ハリストスの復活を見て」

輔祭 「神よ爾の大なる憐れみによって」「主憐れめよ」12回

6調 カノン

主日のカノン、第6調<第1のカノン(復活)のみ、第2(十字架復活)、第3(生神女)は省略>__

第一歌頌

イルモス、イズライリは陸の如く淵を踏み渡り、追ひ詰めしファラオンの溺るるを見て呼べり、凱歌を神に奉らん。



附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

仁慈なるイイススよ、爾は十字架に伸べたる手を以て、父の恵みを萬有に満たし給へり。故に我等皆凱歌を爾に奉る。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

死は命を受けし婢の如く恐れて、爾生命の主宰に就きたり、爾は是を以て我等に死せざる生命と復活とを與へ給ふ。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々にアミン

生神女讃詞

いさぎよもの なんじ おのれ ぞうぶつしゅ う かれ そのみずか ほつ ごと なんじ たね なき ばら はか がた じんせい と
潔き者よ、爾は己の造物主を受けて、彼が其自ら欲せし如く、爾の種なき腹より量り難く人性を取り
たま 給ふによりて、實に造物の女幸と顯れたり。

<十字架復活のカノン、生神女のカノンは省略>

第三歌頌

イルモス、爾が信者の角を高くし、我等を爾が承認の石に堅めし仁慈の主、吾が神よ、爾と均しく聖なるはなし。

第3歌頌



なんじが 信者の角をたかくし 我等を爾が 承け認め
石に堅めし 仁慈の主 我が かみ - よ
なんじと ひとしく 聖なるは な - し

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ぞうぶつ かみ み てい なんじ せい ふっかつ き
造物は神が身に釘せらるるを見、畏れて崩れんとせり、然れども我等の爲に釘せられし者の全能の手に
かた たも 堅く保たれたり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

のろ し し もつ やぶ いき ふ けだしんせい いのち これ つ た へずして つよものころ
詛はれたる死は死を以て壊られ、息なくして偃す、蓋神聖なる生命の之に著くに堪へずして、強き者は殺
され、復活は衆人に賜はる。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々にアミン

生神女讃詞

いさぎよもの なんじ しんみとう さん きせき ことごと てんねん のり こ けだしなんじ せい こえて かみ たいない ばら う
潔き者よ、爾が神妙なる産の奇跡は悉くの天然の法に超ゆ、蓋爾は性に超えて神を胎内に孕み、生
のちつね どうていじよ とど たま
みて後恒に童貞女に止まり給ふ。

◇小連祷 セダレン省略

第四歌頌

イルモス、尊き教會は淨き心より主の爲に祝ひ、神に適ひて呼び歌ふ、ハリストスは吾が力と神と主なり。

第4歌頌

^{どお}尊とき 教- かい は ^{きよ} 浄 き 心より 主の ^{ため} 為に いわ- い
 神に 適いて 呼び うた- う ハリストスは 我が力 と
 か み と 主 - な - り

附唱、^{しゅ}主よ、^{こうえい}光榮は ^{なんじ}爾の ^{せい}聖なる ^{ふっかつ}復活に ^き歸す。

ハリストスよ、^{まこと}眞の ^{いのち}生命の木は ^{きはな}華さけり、^{けだし}蓋 ^{じゅうじか}十字架は ^た樹てられて、^{なんじ}爾の ^{くちぎら}朽ちざる ^{わきばら}脅腹
 より ^{なが}流るる ^{ちみず}血と ^{うるお}水とに ^{われら}潤されて、^{われら}我等の ^{ため}爲に ^{いのち}生命を ^{しょう}生じたり。

附唱、^{しゅ}主よ、^{こうえい}光榮は ^{なんじ}爾の ^{せい}聖なる ^{ふっかつ}復活に ^き歸す。

^{すで}既に ^{へび}蛇は ^{いつわ}譎りて ^{われ}我に ^{かみ}神と ^な爲らんことを ^{すす}勧めず、^{ひと}人の ^{せい}性を ^{かみ}神の ^{せい}性に ^{あわ}合せし ^{いま}ハリストスは ^{いま}今 ^{われ}我が ^{ため}爲に ^{さまたげ}障礙な
^{いのち}き生命の ^{みち}道を ^{ひら}開きたればなり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々にアミン

生神女讃詞

^{しょうしんじょ}生神女・^{えいていどうじょ}永貞童女よ、^{なんじ}爾が ^{しんみょう}神妙なる ^{さん}産の ^{おうぎ}奥義は ^ち地に ^あ在る者にも ^{てん}天に ^あ在る者にも ^{じつ}實に ^い言ひ ^{がた}難く ^{きと}悟り ^{がた}難し。

第五歌頌

イルモス、^{しじん}至仁なる ^{かみ}神の ^{ことば}言よ、^{せつ}切に ^{いのち}祈る、^{なんじ}爾に ^{あさ}朝の ^{せつごう}祈禱を ^{たてまつ}奉る者 ^{もの}の ^{たましい}靈を ^{なんじ}爾が ^{かみ}神の ^{ひかり}光にて ^{てる}照して、^{なんじ}爾罪の ^{やみ}暗
 より ^{よびだ}呼び出す ^{まこと}眞の ^{かみ}神を ^し知らしめ ^{たま}給へ。

第5歌頌

至仁なる 神の ことばよ、 切に いのる

爾に朝の祈禱を奉る 者の たましいを

爾が神の 光にて 照らし - て 爾、罪の闇より呼び出す

まことのかみを 知らしめ - たま - え

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

主宰神の言よ、ヘルウィムは今我に道を許し、焔の劍は我が前より退く、爾眞の神が盜賊の爲に樂園の道を開き給ひしを見ればなり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

主宰ハリストスよ、我は既に地に歸るを畏れず、蓋爾は大仁慈に因りて、爾の復活を以て、我忘れられし者を地より不朽の高處に升せ給へり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々にアミン

生神女讃詞

仁慈なる世界の女宰よ、中心より爾を生神女と受け認むる者を救ひ給へ、我等爾神の眞の母を勝たれぬ轉達として有てばなり。

第六歌頌

イルモス、誘惑の猛風にて浪の立ち揚がる世の海を觀て、爾の穩なる港に着きて呼ぶ、憐深き主よ、我が生命を淪滅より救ひ給へ。

第6歌頌

誘いのあらしにてなみの立ちあがる世の海を見て
 爾の穏やかなる港に着きて呼ぶ憐れみ深き主よ
 我が生命を滅びよりすくいたまへ

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

主幸よ、爾釘うたるる時、釘にて我等が蒙れる詛を滅し、戈にて脅を刺さるる時、アダムの書券を破りて、世界を釋き給へり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

アダムは欺き倒されて、地獄の淵に落されしに、爾本性の神は、憐に因りて、之を尋ねんが爲に降り、肩に荷ひて、共に復活せしめ給へり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々にアミン

生神女讃詞

人人の爲に舵師及び主を生みし至淨なる女幸よ、我が愆の波たつ烈しき煩亂を鎮めて、我が心に穩なるを得しめ給へ。

◇小連禱

小讃詞、第六調。

生命の原因たるハリストス神は生命を施す手を以て死せし者を暗き谷より出して、復活を人類に賜へり、衆人の救世主、復活と生命、及び衆人の神なればなり。

<同讃詞は省略>

第七歌頌

イルモス、天使は敬虔なる少者の爲に爐に露を出さしめ、ハルデヤ人を焼く神の命は苦しむる者に呼ばしめたり、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

第7歌頌

天使は敬虔の少者のために 炉に露を出ださしめ
 ハルデヤ人を焼く かみの命 - は
 苦しむる者に 呼ばしめた - - り 我が先祖の神や
 爾は 崇め讃 - めらる

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

主宰よ、日は爾の苦を嘆きて晦冥を衣、全地は晝に光を失ひて呼べり、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストスよ、地獄は爾の降臨に因りて光を衣、原祖は樂に満たされて祝ひ、喜びて呼べり、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々にアミン

生神女讃詞

母童貞女よ、爾に依りて明なる光は全世界に輝けり、蓋爾は萬有の造成主神を生み給へり。純潔なる者よ、彼に大なる憐を我等信者に降さんことを求め給へ。

第八歌頌

イルモス、ハリストスよ、爾は敬虔なる者の爲に焰より露を注ぎ、義人の祭の爲に水より火を出せり、爾は一の望にて萬事を行ひ給へばなり、我等爾を萬世に讃め揚ぐ。

第8歌頌

ハリストスよ 爾は敬虔なる者のために 炎より露をそそぎ
 義人の祭のために 水より火を出だせり
 爾は一つの望みにて万事を行い 給えば な - - り
 我等 爾を 万世に 讃め - 揚 - ぐ

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

神の言よ、昔諸預言者を殺しシウデヤ民は、今猜によりて、爾を十字架に擧げて、神を殺す者となれり。我等爾を萬世に讃め揚ぐ。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストスよ、爾は天を棄てずして地獄に降りて、膿汗に溺れ臥す人を己と偕に興し給へり。故に我等爾を萬世に讃め揚ぐ。

父と子と聖神の一なる神を讃め揚げん、今も何時も世々にアミン

生神女讃詞

童女よ、爾は光に因りて光を施す言を孕み、量り難く之を生みて、讃榮を得たり、聖神爾の内に入りたればなり。故に我等爾を萬世に讃め歌ふ。

◇生神女の歌を歌ふ、

我が心は主を崇め、我が靈は神我が救主を悦ぶ。

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく榮え、貞操を破らずに神ことばを生みし実の生神女たる爾を崇め讃む。

第2句 その婢の卑しきを顧み給へり、今より萬世我を福なりと言はん、

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく榮え……

第3句 権能を持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、其の名は聖なり、其の憐れみは世世 彼を畏るる者に臨まん

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく榮え……

第4句 其の肘の力を表して、心の驕れるものを散らし給へり、

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく榮え……

第5句 権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、飢うる者を善に飽かせ、富める者をむなしく帰らせ給へり。

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え……

第6句 其の僕、イズライリを納れて、我が先祖に告げしが如く、アウラアムと其の裔を世世に憐れむ事を記憶し給へり、

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え……

第九歌頌

イルモス、天使の品位すら見るを得ざる神は、人見る能はず、唯爾至淨の者に藉りて人體を取りし言は人人に現れ給へり。我等彼を崇めて、天軍と偕に爾を讃め揚ぐ。

第9歌頌

天使の品位すら見るを得ざる神は
人見るあたわ—ずただ爾至淨の者に藉りて
人體を取りし言は人々に現れたまえり我等彼を
あがめて天軍とともになんじを讃め—揚ぐ

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

神の言、吾が救世主よ、爾は苦に與らざる者にして、身にて苦に與りて、人を苦より釋き給へり、爾は獨り無慾にして全能なればなり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

主宰よ、爾は死の傷を受けて、爾の體を朽壞に與らざる者として護れり、爾が生命を施す神聖なる靈は地獄に遺されずして、爾は寢より興くるが如く復活し、我等を共に興し給へり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々にアミン

聖三者讃詞

我等衆人淨き口を以て神父、同無原の子を讃め揚げ、至聖神の言ひ難き至榮なる能力を尊み崇む、爾全能の三者は唯一にして分れざる者なればなり。

→通常部分へ戻る P29

◇ 小聯禱

「主我等の神は聖なり」

【差遣詞】

6 調 【讃揚歌とスティヒラ】



およそいきあるものは主をほめあげよ天より主を
ほめあげよ 至と高きにかれをほめあげよほめ歌は
なんじかみにき すそのことごとくの神使やかれをほめ
あげよそのことごとくの軍やかれをほめあげよほめ
うたはなんじかみにき す

【定規のトロパリ】

【重連禱、増連禱】 早課の終わり。発放詞。

一時課

<一時課の変更箇所は、トロパリ、コンダクのみ>

スボ夕晚 課

【首唱(103)聖詠】「我が霊や」、【大連禱】

【カフィズマ】第一段「悪人の謀」歌う、

【小連禱】

7 調

「主や爾に呼ぶ」主日 第7調

主や汝に呼ぶすみやかに我れに至りたまえ 主やわれに聞
きたまえ 主や汝に呼ぶすみやかに我れに至りたまえ なじ
に呼ぶ時我が祈りの声をいれたまえ 主や我れにきたま え
願わくはわがいのりは香炉の香りのごとく汝がかんばせ
のまえにのぼり わが手をあぐるは暮れの祭のごとく
いれられ 主や我れに聞きたま え

聖詠（「主や我が口」～「彼我より強ければなり」まで略）

句、我が霊を獄より引き出して、我に爾の名を讃榮せしめ給へ。

きたりて、死の權を滅し、人類を照しし主の爲に喜びて、無形の者と共に呼ばん、吾が造成主及び救世主よ、光榮は爾に歸す。

句、爾恩を我に賜はん時、義人は我を環らん。

救世主よ、爾は我等の爲に十字架と葬とを忍び、神なるに因りて死を以て死を滅し給へり。故に我等爾の三日目の復活に伏拜す。主よ、光榮は爾に歸す。

句、主よ、我深き處より爾に呼ぶ。主よ、我が聲を聴き給へ。

使徒等は造成主の復活を見て、奇として、諸天使の讚美を歌へり、是は教會の光榮なり、是は國の富なり。我等の爲に苦を受けし主よ、光榮は爾に歸す。

又讚頌、アナトリイの作。同調。

句、願はくは爾の耳は我が禱の聲を聴き納れん。

ハリストスよ、不法の人人に執はれたれども、爾は我の神なり、我耻ぢず、肩を打たれたれども、我諱まず、十字架に釘せられたれども、我隠さず、我爾の復活を誇る、蓋爾の死は我の生命なり。全能にして人を愛する主よ、光榮は爾に歸す。

句、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん爲なり。

ハリストスはダビドの預言を行ひて、シオンに於て己の尊大なるを門徒に顯して、己が常に父及び聖神と偕に讚美讚榮せらるる者なるを示せり。蓋彼は先に無形なる言にして、後に我等の爲に身を取り、人と爲りて殺され、權を以て復活せし仁愛の主として讚榮せらる。

句、我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を恃む。

ハリストスよ、爾は欲せし如く地獄に降り、神及び主宰として死を滅し、三日目に復活して、アダムを地獄の桎梏及び朽壞より己と偕に復活せしめて、呼ばしめたり、獨人を愛する主よ、光榮は爾の復活に歸す。

句、我が靈主を待つこと、番人の目を待ち、番人の目を待つより甚し。

主よ、爾は寝ぬる者の如く墓に置かれ、能力の強き者として三日目に復活し、全能者としてアダムを己と偕に死の朽壞より復活せしめ給へり。

又生神女の讚頌、アモレイのパワエルの作。第二調。

句、願はくはイスライリは主を恃まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼はイスライリを其ごとくの不法より贖はん。

讚美たる女宰、我等の轉達者よ、爾は天使等の歡喜、爾は人人の光榮、爾は信者の倚頼なり。神の聘女よ、我等爾を讚め歌ふ衆人は凡の危難の中に爾に趨り附く、爾の祈禱を以て敵の矢と、靈の惱と、種種の憂より脱れん爲なり。

句、萬民よ、主を讚め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讚めよ。

讚美たる生神女、夫を識らずして身にて世界の爲に神及び救世主を生みし女宰、獨ハリストティアン等の避所なる者よ、爾は我の倚頼、爾は我の轉達者と、垣牆と、避所なり。爾の祈禱を以て我等を圍む誘惑と、危難と、患難より脱れしめ給へ。

句、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

しょうしんどうていじよ お にくたい うごき とどめ わ よく ほのお け お のぞみ あくあつ われ しりぞ わ がんこ
 生神童貞女よ、我が肉體の動揺を止め、我が慾の焰を滅し、我が望の悪熱を我より退け、我が頑固な
 らわし あらた われ あくき こうげき まも たま わが こころ あんせい わ たましい むよく うち なんじ きんび もの
 る風習を改めて、我を悪鬼の攻撃より護り給へ、我が心の安静、我が靈の無慾の中に爾讚美たる者
 を讃め歌はん爲なり。

光栄は父と子と聖神にきす今もいつも世世にアミン

生神女シウ シンダウや 汝ツネは常ホウの法にこえて母となりことばとちし

きにこえて童貞女にとどまれりわがくちは汝の産サンの

奇蹟キ セキを言イいつくすあたわす清キヨきものやなんじのはらみしは

神妙シンミョウにしてなんじの生みしは悟サトりがたしけだし神カミの

のぞむところにはつねの法ホウかえらるゆえにわれらみな

なんじを神の母とみとめてせつにねが われらのたましい

のすくわることのりたまえ

→通常部分 (P6「聖にして福たる」へ戻る

【スポタのポロキメン】(6調) 第92聖詠1—5

重連禱

誦経「主や我等を守り」

増連禱

(増連禱が終わったら)

7 調

挿句のスティヒラ

世界の救主よ、爾は墓より復活して、人人を爾の身と偕に興し給へり。主よ、光榮は爾に歸す。

他の讚頌。

句、主は王たり、彼は威嚴を衣たり。

來りて、死より復活して、萬有を照しし主に伏拜せん、蓋彼は我等を地獄の苛虐より釋きて、其三日目の復活を以て我等に生命と大なる隣とを賜へり。

句、故に世界は堅固にして動かざらん。

仁愛の主ハリストスよ、爾は地獄に降りて、死を虜にし、三日日に復活して、我等爾の全能の復活を讚榮する者を共に復活せしめ給へり。

句、主よ、聖徳は爾の家に屬して永遠に至らん。

主よ、爾は寝ぬる者の如く墓に臥して、威嚴なる者と現れ、全能者として三日目に

復活し、アダムを己と偕に復活せしめて、呼ばしめたり、獨人を愛する主よ、光榮は爾の復活に歸す。

光榮、今も、生神女讚詞。

女宰よ、我等地に生るる者は皆爾の旃幃の下に趨り附きて、爾に呼ぶ、生神女、我が憑持よ、我等を無數の愆尤より援けて、我等の靈を救ひ給へ。

→通常部分 P10「シメオンの祝文」へ戻る

「聖三祝文」「至聖三者」「天主經」

司祭 蓋国と権能と光榮は爾父と子と聖神^oに歸す、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」

「生神童貞女や、慶べよ」

「願わくは主の名は崇めほめられ……」

早 課

来たれ…、【六段の聖詠】【大連禱】に続いて

＜カフィズマ、セダレンは省略＞

7 調

主は神なり、主日トロパリ

主は神なり我等を照せり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる、

(第1句) 主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして其憐は世世にあればなり、

(第2句) 彼等我を囲み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり、

(第3句) 我死せず、猶生きて主の行ふ所を伝へん、

(第4句) 工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす、



主はかみなりわれらをてらせり主の名によって



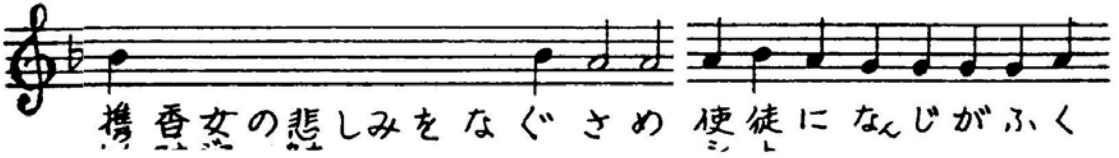
来たるものはあがめほめらる



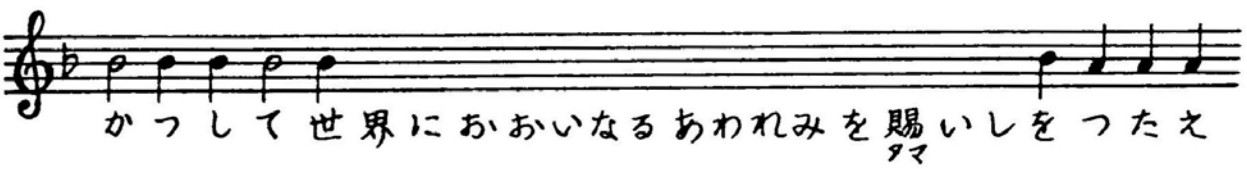
分ト エス かみや 汝は十字架にて死をほろぼし



けぞくのために天堂をひらき



携 昏 女の 悲しみをなぐさめ 使徒になじがふく



かつして世界におおいなるあわれみを賜いしをつたえ



させたまえり

→通常部分 P15 【ポリエレイ】「主の名を讃め揚げよ」

<ポリエレイ後のセダレン、ネポロチニ省略>

【復活のエフロギタリア】「主や爾は崇め讃める」

【小連禱】【アンティフォン】 4 調

7 調

【アンティフォン】

品第詞、第七調。第一倡和詞

シオンの虜を迷より返しし救世主よ、我をも生かして、愆の奴役より脱れしめ給へ。南風の時に 齋
と涙とを以て悲を播く者は、喜を以て永生の糧の束を刈らん。

光榮、(今も)

聖神には神聖なる寶の泉あり、彼より睿智、知識、敬畏は賜はる。彼に讚美と光榮、尊敬と權柄は歸す。
(省略 今も、同上。)

第二倡和詞

若し主靈の家を造らずば、我等徒に勞す、蓋彼を外にしては、行も言も成らず。
諸聖人は聖神に藉りて腹の果として、神の子と爲す諸父の教を生ず。

光榮

聖神には萬物の存在は繋る、蓋彼は萬有の先より在す神、一切の者の主、近づき難き光、萬有
の生命なり。 今も、同上。

第三倡和詞

主を畏れて生命の道を得たる者は、今も何時も不朽の光榮の中に福樂を享く。
牧師長よ、爾の諸子が枝の如く爾の席を環れるを見て、喜び樂しみて、之をハリストスに攜へ
よ。

光榮

聖神より恩賜の充満、光榮の富、議事の 大なる深みは賜はる、彼は父及び子と同榮にして奉事せ
らるればなり。 今も、同上。

☆提綱、第7調

主我が神よ、起きて、爾の手を擧げよ、苦しめらるる者を永く忘るる母れ。

句、主よ、我心を盡して爾を讃め揚げ、爾が悉くの奇跡を傳へん。

Zm 7調

主我が神よ、起きて なんじの手を擧げよ、
苦しめらるる者を わするる なか—れ

【福音の読み】

【福音後のスティヒラ】「ハリストスの復活を見て」

輔祭 「神よ爾の大いなる憐れみによって」「主憐れめよ」12回

7 調 カノン

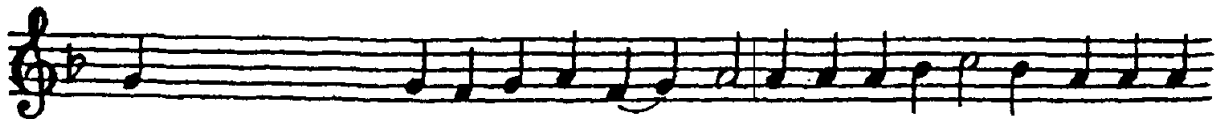
主日のカノン、第7調 <第1のカノン(復活)のみ、第2(十字架復活)、第3(生神女)は省略>

第一歌頌

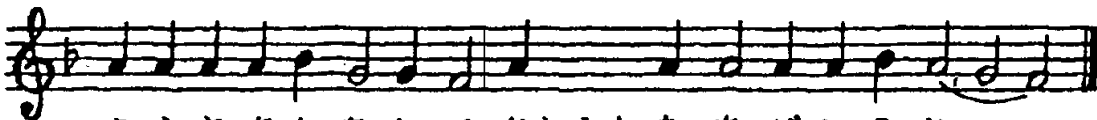
イルモス、主よ、曾て流れ易き性の水は爾の瞬にて地の姿に變れり、故にイスライリは足を濡らさず渡りて、凱歌を爾に歌ふ。



主やかつてながれやすきせいのみづはなんじのまたたき



にて地のすがたにかわれりゆえにイスラリあしを、



ぬらさずわたりてかちうたをなんじにうとじ

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

主よ、爾非義の裁判を以て死に擬定せられしに、死の權は木に縁りて擬定せられたり、故に闇冥の君は爾に勝つ能はずして、義に合ひて逐はれたり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

救世主よ、地獄は爾に近づきたれども、齒を以て爾の身を碎く能はずして、頤を壞られたり。故に爾は死の苦しみを滅して、三日目に復活し給へり。

「光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン」

生神女讃詞

至淨なる者よ、原母エワの苦は釋かれたり、爾苦を免れ、夫に與らずして生みたればなり。故に我等皆明に爾を生神女と知りて讃榮す。

第三歌頌

イルモス、元始に全能の言にて天を堅め、能はざるなき聖神にて其悉くの能力を備へし主・救世主よ、爾が承認の動かざる右に我を堅め給へ。(楽譜は次ページ)

はじめに全能の**ことば**にて天をかためあたわ
 ざるなきせい神にてそのことごとくのちからを
 そなえし**まきゅうせ** いまや**なんじ**が承認めの勤か
 ざるいしにわれをかためたま え

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

慈憐なる救世主よ、爾は木に上りて、甘じて我等の爲に苦を受け、信者に和睦と救贖とを得しむる傷を忍び給へり。仁慈なる主よ、我等皆此の傷に由りて爾の父と和睦するを得たり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストスよ、爾は我靈を蛇に嚙まれて傷つけられし者の傷を淨めて、我昔幽暗と朽壞とに臥したる者に光を顯はせり、蓋十字架に由りて地獄に降りて、我を己と偕に復活せしめ給へり。

「光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン」

生神女讃詞

救世主よ、夫を識らざる爾の母の祈禱に由りて世界に平安を與へ、皇帝に敵に勝たしめ、爾を讃榮する者に言ひ難き爾の光榮を得しめ給へ。

◇小連禱、(セダレンは省略)

第四歌頌

イルモス、父の懷を離れずして、地に降りしハリストス神よ、我爾の慮の秘密を聞きて、爾獨人を愛する主を讃榮せり。(楽譜は次ページ)

ちちのふところをはなれずして地にくだりしリス
 かみやわれ汝のおもんばかりのひみつをききき
 なんじヒトひとり人を愛するの主をほめあぐル

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

童貞女より身を取りし無垢なる主宰は己の肩を罪を犯しし僕に傷の爲に與へ、打たれて、我が諸罪を釋き給ふ。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

神として人を造り、義を以て地を審判する主は法にもつる審判者の前に立ちて、定罪せらるる者の如く語られ、塵に屬する手にて批たる。

「光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン」

生神女讃詞

純潔なる者よ、實に神の母として爾の造成主及び子に祈りて、我を其光榮なる旨の救を得しむる港に向はしめんことを求め給へ。

第五歌頌

イルモス、ハリストスよ、夜は信ぜざる者の爲に明るからず、信者の爲には爾の言を甘ざるに因りて明るし。故に我朝の禱を爾に奉りて、爾の神性を讃め歌ふ。(楽譜は次ページ)

リススや夜は信ぜざるものの為にあかるからず
 信者の為には汝の言葉を甘コトずるバによつてあかるし
 故にわれ朝のいのりを汝にたてまつりて
 なんじの神せいをほめうとう

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストスよ、爾は己の諸僕の爲に賣られ、頬を撲たるるを忍びて、彼等に自由を得しめ給ふ。故に彼等歌ひて曰ふ、朝の禱を爾に奉りて、爾の神性を讃め歌ふ。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストス救世主よ、爾は神たる力に因りて、肉體の弱きを以て強き者を斃し、復活を以て我を死に勝つ者と顯し給へり。

「光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン」

生神女讃詞

讚美たる潔き母よ、爾より身を取りし神を爾は神に合ひて生み給へり、夫を識らずして、聖神に藉りて生みたればなり。

第六歌頌

イルモス、ハリストスよ、我世の慮の淵に漾ひ、我を覆へる諸罪の濤に溺れ、靈を滅す猛獸に擲たれて、イオナのごとく爾に籲ぶ、死を致す深處より我を引き上げ給へ。

ハリス
トス
やわれイオナのごとく汝に呼ぶわれ世のおもん
ばかりの海にただよいつみのなみにしずめられ
たまいをほろぼすたけきけものにくださるるものを
死の淵よりひきあげたまえ

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストスよ、地獄に繋ぎ置かれたる義人等の靈は爾を記念して、爾に因る救を祈れり、爾は慈憐なるに因りて來りて、十字架を以て之を最卑きに在る者に與へ給へり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

使徒の會は手にて造られざる生ける爾の堂を、其苦の爲に壞たれしに因りて、再見る望を失ひたれども、望の外に之を拜みて、遍く復活せしを傳へたり。

「光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン」

生神女讃詞

神の聘女たる童貞女よ、我等の爲に成りし爾の言ひ難く玷なき産の景状は人誰か解くを得ん、蓋神言は象り難く爾に合せられて、爾に藉りて肉體と爲り給へり。

◇小連禱

小讃詞、第七調。

死の權は已に人人を捕ふる能はず、蓋ハリストスは降りて其力を敗りて滅し給へり。地獄は縛られ、預言者は同心に喜びて呼ぶ、救世主は信に居る者に現れたり、信者よ、復活して出でよ。

<同讃詞は省略>

第七歌頌

イルモス、昔少者は燃ゆる爐を露を出す者と顯して、一の神を歌ひて白へり、爾は崇め讃めらるる先祖の神なり。

むかし少 者はもゆるいろりをつゆをいだすもの
 とあらわしひとつの神をうとていえ りなご
 はあがめほめらるる先祖のかみなり

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

アダムは自由に不順を行ひて、木に縁りて殺され、ハリストスの順に縁りて復新にせらる、崇め讃めらるる神の子が我等の爲に釘せらるればなり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

崇め讃めらるるハリストスよ、萬物は爾墓より復活せし主を讃め歌へり。蓋爾は地獄に在る者に生命、死せし者に復活、幽暗に在る者に光を施し給へり。

「光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン」

生神女讃詞

塵に屬するアダムの女よ、慶べ、獨神の聘女なる者よ、慶べ、朽壞を去りて、神を生みし者よ、慶べ。潔き者よ、彼に我等衆の救はれんことを祈り給へ。

第八歌頌

イルモス、燃ゆれども焚けざるシナイの棘は口鈍く言澁るモイセイに神を顯せり。神を慕ふ熱心は三人の少者を火に焚かれざる者と爲して、歌はしめたり、主の悉くの造物は主を歌ひて、萬世に讃め揚げよ。
(楽譜は次ページ)

1) 

もゆれどもやけざるシナイのいばらはくごもりて
 ことばおそきモイセイにかみをあらわし かみを
 しとあつきころろ は三たりの少者を火に焼か
 れざる歌うものとなせり主のことごとくの造ぶつ
 は主をうとて 世世にほめあげよ

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

無玷なる靈智の 羔は世界の爲に屠ふられて、律法に循ふ獻物を息め、神として世界を罪より潔めて、常に呼ばしむ、主の 悉くの造物は主を歌ひて、萬世に讃め揚げよ。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

造物主が取り給ひし我が肉體は 苦の前には不朽たらざりに、苦と復活との後には朽壞に與からざる者と爲りて、死に屬する者を新にして呼ばしむ、主の 悉くの造物は主を歌ひて、萬世に讃め揚げよ。

「父と子と聖神一なる神を讃め揚げん、今も何時も世世にアミン」

生神女讃詞

至淨なる童貞女よ、爾の潔淨と無玷とは世界の汚穢と憎むべき事とを潔めて、爾我等と神との和睦の縁由と爲り給へり。故に我等 悉くの造物は爾童貞女を崇め歌ひて、萬世に讃め揚ぐ。

◇生神女の歌を歌ふ、

我が心は主を崇め、我が靈は神我が救主を悦ぶ。

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく榮え、貞操を破らずに神ことばを生みし実の生神女たる爾を崇め讃む。

第2句 その婢の卑しきを願ひ給へり、今より萬世我を福なりと言はん、

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく榮え……

第3句 権能を持ち給へるものは、我が爲に大なる事を為せり、

其の名は聖なり、其の憐れみは世世 彼を畏るる者に臨まん

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく榮え……

第4句 其の肘の力を表して、心の驕れるものを散らし給へり、

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく榮え……

第5句 権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、飢うる者を善に飽かせ、富める者をむなしく帰らせ

給へり。

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え……

第6句 其の僕、イズライリを納れて、我が先祖に告げしが如く、

アウラアムと其の裔を世世に憐れむ事を記憶し給へり、

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え……

第九歌頌

イルモス、汚に染まずして生み、萬の物を造りし言に肉體を予へし夫を識らざる母、生神童貞女、容れ難き者の器、限なき爾の造成主の住所よ、我等爾を崇め讃む。(楽譜は次ページ)

けがれにそまずして生みよろずの物をつくりしこ

とばに体^{カラダ}をかせしおとを知らざるのはは生神童

貞女^{メイ}いれがたき者のうつわかぎりなきなじの造^{ツク}せい

主^ミのすまいやわれらなじをあがめほむ

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

凡そ異端を唱へて、神の性は苦を受けたりと云ふ者は口を緘ぢよ。我等が崇め讃むる一位にして兩性を兼ねる光榮の主は神の性を以てするにあらずして、肉身を以て十字架に釘せられたり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

肉體の復活を信ぜざる者はハリストスの墓に往きて學べ、蓋彼は殺されたれども、生を施す主の肉身は復活して、我等の望める最後の復活を信ぜしむ。

「光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン」

三者讃詞

我等の尊める者は神性の三にあらずして、位の三なり、又位の一にあらずして、神性の一なり。我等は神性を分つ者を斷ち、又位を混淆する者を斥く。

→通常部分へ戻る P29

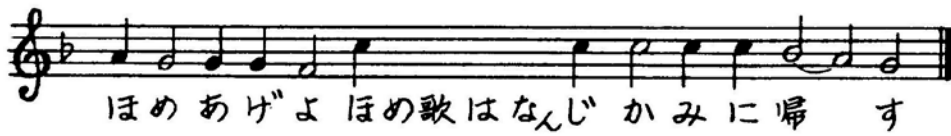
◇ 小聯禱

「主我等の神は聖なり」

【差遣詞】

7 調

【讃揚歌とスティヒラ】



【定規のトロパリ】

【重連祷、増連祷】 早課の終わり。発放詞。

一時課

<一時課の変更箇所は、トロパリ、コンダクのみ>

スボ夕晩 課

【首唱(103)聖詠】「我が霊や」、【大連禱】

【カフィズマ】第一段「悪人の謀」歌う、

【小連禱】

8 調

「主よ、爾に籲ぶ」主日、第八調。

主や汝に呼ぶすみやかに我れに至りたま え主やわれに聞き
 たま え主や汝に呼ぶすみやかに我れにいたりたま え
 汝に呼ぶとき我が祈りの声をいれたま え主やわれに聞き
 たま えねがわくは我がいのりは香炉の香りのごとく
 汝が顔のまえにのほり我が手をあぐるは暮れのまつりの
 ごとくいれられ、主やわれにききたま え

句、我が霊を獄より引き出して、我に爾の名を讚榮せしめ給へ。

ハリストスよ、我等晩の歌と靈智の務とを爾に獻る、爾復活を以て我等を救ひ給ひしに因る。

句、爾恩を我に賜はん時、義人は我を環らん。

主よ、主よ、我等を爾の顔より退くる母れ、復活を以て我等を救ひ給へ。

句、主よ、我深き處より爾に呼ぶ。主よ、我が聲を聞き給へ。

聖なるシオン、諸教會の母、神の住所よ、慶べ、爾は始めて復活に由りて罪の赦を受けたればなり。

又讚頌、アナトリーの作。同調。

句、願はくは爾の耳は我が禱の聲を聴き納れん。

世世の前に神父より生れ、末の時に婚姻に與らざる童貞女より甘じて身を取りし言は十字架に釘せられ、死を忍びて、己の復活を以て昔殺されし人を救ひ給へり。

句、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん爲なり。

ハリストスよ、我等は爾の死よりの復活を讚榮す。爾は此を以てアダムの族を地獄の苛虐より釋き、神として世界に永遠の生命と大なる憐とを賜へり。

句、我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を待む。

ハリストス救世主、神の獨生の子、十字架に釘せられて、三日目に墓より復活せし主よ、光榮は爾に歸す。

句、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

主よ、我等は爾甘じて我が爲に十字架をしのびし者を讚榮す、全能の救世主よ、爾に伏拜す。人を愛する主よ、我等を爾の顔より退くる勿れ、乃ち我等に聴きて、爾の復活を以て我等を救ひ給へ。

又生神女の讚頌、アモレイのパワエルの作。第四調。

句、願はくはイズライリは主を待まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼はイズライリを其悉くの不法より贖はん。

神の母よ、天の品位は爾を讚榮す、蓋爾至淨なる者は父及び聖神と偕に永在する神、意志を以て無より天使の軍を造りし主を生み給へり。正しく爾を生神女と讚め歌ふ者の靈を救ひて照さんことを彼に祈り給へ。

句、萬民よ、主を讚め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讚めよ。

女宰よ、我爾を成聖の泉、聖神に輝かざる純金の約匱として、爾の前に俯伏して祈る、慾に耽る我が不當なる靈を照し、我を悪鬼の甚しき苛虐より脱れしめて、我に蹉跌なく救の道を行かしめ給へ。

句、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

寶座は立てられ、書は披かれ、行は露れ、各人が己の重任を荷ひ、裸體にして前に立ちて、神の憤及び其義なる審問に慄く時、女宰よ、其時我を憐みて、罪なる我を凡の定罪と諸の苦より脱れしめ給へ。

→通常部分 (P6「聖にして福たる」へ戻る

【スポタのポロキメン】(6調) 第92聖詠1-5

重連禱

誦経「主や我等を守り」

増連禱

(増連禱が終わったら)

8 調

挿句のステヒラ

○挿句に主日の讃頌、第八調。

天より降りしイイスは十字架に上り、死せざる生命は死の爲に來り、眞の光は黑暗にある者に顯れ、衆人の復活は陥りし者に臨めり。我等の光及び救世主よ、光榮は爾に歸す。

他の讃頌

句、主は王たり、彼は威嚴を衣たり。

我等は死より復活せしハリストスを讃榮す、蓋彼の受けたる靈と體とは苦の時に相分れたり、其至淨なる靈は地獄に降りて、之を擲にし、我が靈の救主の聖なる體は墓に在りて朽壞を見ざりき。

句、故に世界は堅固にして動かざらん。

ハリストスよ、我等聖詠と詩賦とを以て爾の死よりの復活を讃榮す。爾は此を以て我等を地獄の苛虐より解きて、神として永遠の生命と大なる憐とを賜へり。

句、主よ、聖徳は爾の家に屬して永遠に至らん。

嗚呼萬有の測り難き主宰、天地の造物主よ、爾は十字架の苦を忍びて、我に苦なきを流せり、瘞を受け、光榮の中に復活して、全能の手を以てアダムの偕に復活せしめ給へり。光榮は爾の三日目の復活に歸す、爾は此を以て我等に永遠の生命と諸罪の潔淨とを賜へり、獨慈憐の主なればなり。

光榮、今も、生神女讃詞。

聘女ならぬ童貞女、言ひ難く身にて神を孕みし者、至上なる神の母よ、爾の諸僕の祈祷を受け給へ。衆に諸罪の潔淨を予ふる純潔なる者よ、今我等の冀願を納れて、我等皆救はれんことを祈り給へ。

→通常部分 P10 「シメオンの祝文」へ戻る

「聖三祝文」「至聖三者」「天主經」

司祭 蓋国と権能と光榮は爾父と子と聖神[°]に歸す、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」

「生神童貞女や、慶べよ」

「願わくは主の名は崇めほめられ……」

早 課

来たれ…、【六段の聖詠】【大連禱】に続いて
＜カフィズマ、セダレンは省略＞

8 調

主は神なり、主日トロパリ

主は神なり我等を照せり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる、

(第1句) 主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして其憐は世世にあればなり、

(第2句) 彼等我を囲み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり、

(第3句) 我死せず、猶生きて主の行ふ所を伝へん、

(第4句) 工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす、



→通常部分 P15 【ポリエレイ】「主の名を讃め揚げよ」

<ポリエレイ後のセダレン、ネポロチニ省略>

【復活のエフロギタリア】「主や爾は崇め讃める」

【小連禱】【アンティフォン】 4 調

8 調

【アンティフォン】

品第詞、第八調。第一倡和詞 (毎句復唱す)

我が 幼き時より敵は我を誘ひ、逸樂にて我を焦がす、主よ、我唯爾を頼みて之に勝つ。シオンを憎む者は抜かる前の草の如し、蓋ハリストスは苦しき切斷を以て彼等の首を斬らん。 光榮 (今も)
聖神に藉りて萬有は生く、彼は光よりの光にして、大なる神なり。我等彼を父及び言と偕に崇め歌ふ。

(以下省略 今も、同上。)

第二倡和詞

至りて慈憐なる主よ、願はくは我が心は謙りて、爾を畏るる畏に覆はれん、高ぶりて爾より離れ落ちざらん爲なり。主に恃みを負はせたる者は、主が火と苦とを以て衆を審判せん時に懼れざらん。

光榮

聖神に藉りて凡の聖者は見、預言し、奇妙に高尚なる事を行ひて、三位に唯一の神を歌ふ、蓋神性は三光なれども獨一なり。 今も、同上。

第三倡和詞

主よ、我爾に籲べり、聞き納れて、呼ぶ者に爾の耳を傾け、我を此より取らざる先に潔め給へ。己の母たる地に歸る衆人は復出でん、在世の時に行ひし事に適ひて苦痛或は尊榮を受けん爲なり。

光榮

聖神に藉りて聖三の唯一者は傳へらる、蓋父は無原なり、子は時なき先に彼より生れ、同一座同一性の神は共に父より輝けり。 今も、同上。

第四倡和詞

兄弟睦しく居るは善なる哉、美なる哉、蓋主は此が爲に永遠の生命を約せり。

野の百合花を妝ふ主は己の衣の爲に慮るを要せずと命じ給ふ。 光榮

聖神は萬物の平安に保たるる唯一の原因なり、蓋彼は神なり、父及び子と一體にして、同宰制の主なり。 今も、同上。

☆提綱、第8調

主は永遠に王とならん、シオンよ、爾の神は世々に王とならん。

くわ たまい しゅ ほ あ われい うちしゅ ほ あ
句、我が 靈よ、主を讃め揚げよ。我生ける中主を讃め揚げん。

Zm 8調

主は 永遠に 王とならん シオンよ、爾の 神は
世 世 に 王 とならん。

→通常部分 P20

【福音の読み】

【福音後のスティヒラ】「ハリストスの復活を見て」

輔祭 「神よ爾の大なる憐れみによって」「主憐れめよ」12回

8 調 カノン

主日のカノン、第8調 <第1のカノン(復活)のみ、第2(十字架復活)、第3(生神女)は省略>

第一歌頌

イルモス、昔 奇跡を行ふモイセイの杖は、十字形に撃ちて、海を分ち、車に乗りて追ひ来るファラオン
を沈め、徒歩にて逃るるイスライリ、神を讃め歌ふ者を救ひ給へり。

1)

むかしきせきをおこの、モイセイのつえは十字か
たにうちてうみをわかちくるまにのりて追いくるヲラ
オンをしずめ徒歩にて逃がるるイスライリかみを
ほめうと、ものをすくいたまえり

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

我等如何ぞハリストスの全能の神性を奇とせざらん、彼は苦より衆信者に苦なきと朽ちざるとを流

し、^{せい}聖なる^{わき}脇より^{ふし}不死の^{いずみ}泉を^{したた}滴らせ、^{ほか}墓より^{えいえん}永遠の^{いのち}生命を^{ほどこ}施し^{たま}給ふ。

附唱、^{しゅ}主よ、^{こうえい}光榮は^{なんじ}爾の^{せい}聖なる^{ふっかつ}復活に^き歸す。

^{てんし}天使は^{いまおんなたち}今女等に^{いかに}如何にか^{うるわ}美しき^{もの}者と^{あらわ}現れたる、^{かれ}彼は^{ほんせい}本性の^{むけい}無形の^{けつじょう}潔淨の^{こうめい}光明なる^{かたち}形を^{そな}具へ、^{そのすがた}其姿
を^{もつ}以て^{ふっかつ}復活の^{ひかり}光を^{しめ}示して^よ呼べり、^{しゅ}主は^{ふっかつ}復活し^{たま}給へり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン

生神女讃詞

^{かみことば}神言を^{はら}腹に^い容れて^{みきお}貞潔を^{まも}守りし^{しょうしんじよ}生神女^{なんじ}マリアよ、^{おのれ}爾に^{しえい}於て^{こと}至榮なる^{よよ}事は^{うち}世世の^{とな}中に^{ゆえ}唱へられたり。故
に^{われ}我等^{みななんじかみ}皆^{つぎ}爾^お神の^{ほごしや}亞に^{もの}我が^{とうと}保護者たる^{もの}者を^{とうと}尊む。

第三歌頌

^{イルモス}イルモス、^{はじめ}始に^{ちえい}智慧にて^{あめ}天を^{かた}堅め、^{みづ}地を^{うへ}水の上に^{たて}建てし^{ハリストス}ハリストスよ、^{まこと}爾が^{いし}誠の^{いし}石に^{われ}我を^{かた}堅め^{たま}給へ、^{ひとり}爾獨
人を^{あはれ}慈む^{まへ}主の外に^{せいなる}聖なる^{もの}者なければなり。(楽譜は次ページ)

(3)

はじめに^{ちえい}知恵にて^{あめ}天を^{かた}かた^めめ^{みづ}地を^{うへ}水に^{たて}たてし

^{ハリス}ハリス^ええ^なな^がが^いい^まま^しし^めめ^のの^いい^しし^にに^{われ}われ^をを^かか^たた^めめ^たた

ま^ええ^なな^がが^ひひ^とと^りり^のの^いい^づづ^くく^しし^むむ^まま^のの^ほほ^かか^にに^{せい}せい^{なる}なる

ものなければなり

小連禱

附唱、^{しゅ}主よ、^{こうえい}光榮は^{なんじ}爾の^{せい}聖なる^{ふっかつ}復活に^き歸す。

^{ハリストス}ハリストスよ、^{くら}食ふ^{つみ}罪に^よ因りて^{ていざい}定罪せられし^{アダム}アダムを、^{なんじ}爾は^{おのれ}己の^み身の^{すくい}救を^{ほどこ}施す^{くるしみ}苦しみを^{もつ}以て^ぎ義と^な爲し^{たま}給
へり、^{けだしつみ}蓋罪なき^{しゅ}主よ、^{なんじみずか}爾親ら^し死の^{こころみ}試に^{ぞく}屬せざりき。

附唱、^{しゅ}主よ、^{こうえい}光榮は^{なんじ}爾の^{せい}聖なる^{ふっかつ}復活に^き歸す。

^{かみ}が^{くらやみ}神イイスは^お幽暗に^し居り^{かげ}死の^ぎ蔭に^{もの}坐する^{ふっかつ}者に^{ひかり}復活の^{かがや}光を^{おのれ}輝かし、^{しんせい}己の^{もつ}神性を^{つよ}以て^{もの}強き^{しば}者を^{その}縛りて、^{うつもの}其
^{おびやか}器を^{たま}劫し^{たま}給へり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン

生神女讃詞

^{むでん}無玷なる^{しょうしんじよ}生神女よ、^{なんじ}爾は^{およ}ヘルウィム及び^{うえ}セラフィムより^{もの}上なる^{あらわ}者と^{けだしなんじ}顯れたり、^{ひとり}蓋^い爾は^{がた}獨容れ^{かみ}難き^{かみ}神
を^{おのれ}己の^{はら}腹に^う受け^{たま}給へり。故に^{ゆえ}我等^{われ}衆^{しゅうしんじや}信者は^{うた}歌を^{もつ}以て^{なんじいさぎよ}爾^{もの}潔^{さんよう}き者を^{もの}讃揚す。

◇小連禱、(セダレン省略)

第四歌頌

イルモス、主よ、爾は我の固、我の方なり、爾は我の神、我の喜なり、爾は父の懷を離れずして、我等の貧しきに臨み給へり。故に預言者アウワクムと共に爾に呼ぶ、人を慈む主よ、光榮は爾の力に歸す。(楽譜は次ページ)

4)



主や汝はわれのかためとちから なり汝はわれの
神とよろこびなり汝は父のふところをはなれ ずして
いやしきわれにのぞ みたまえりゆえに預言者アウワクム
と共に汝に呼ぶひとをいつくし むの主 や
光 榮は汝のちからに 歸す

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

慈憐なる救世主よ、爾は敵なる我を甚愛せり。爾は驚くべき謙遜を以て地に臨み、我が至極の暴虐を辭せず、爾の至淨なる光榮の高に在して、我嘗て辱しめられし者を榮し給へり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

主宰よ、誰か今苦にて死の滅され、十字架にて朽壞の遠ざけられ、死にて地獄の寶の奪はるるを見て驚かざらん。人を愛する主よ、爾十字架に釘せられし者の神聖なる力にて行はれしことは奇異なる哉。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン

生神女讃詞

聘女ならぬ聘女よ、爾は信者の譽なり、爾は「ハリストティアニシ」等の轉達と避所、城垣と港なり。蓋爾は、純潔なる者よ、爾の子に祈禱を獻げて、信と愛とを以て爾を潔き生神女と承け認むる者を苦難より救ひ給ふ。

第五歌頌

イルモス、隠れざる光よ、何ぞ我を爾の顔より退けし、外の闇は憐なる我を掩へり。祈る、我を返して、我が

途を爾の誠の光に向はしめ給へ。(楽譜は次ページ)

5) 

かくれざ^ルるひかりやなんぞわれを汝のかんばせ
よりしりぞけしやほかのやみはあわれなるわれを
お^のえりいのるわれをかえしてわが足をなんじの
いましめのひかりにむかわしめたまえ

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストス救世主よ、爾は辱しめられて、苦の前に絳袍を衣せらるるを忍びて、始に造られし者の醜き裸を掩ひ、裸なる身にて十字架に釘せられて、死の衣を脱ぎ給へり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストスよ、爾は復活して、我が墜ちたる性を死に屬する塵より改め作り、之を老いざる者と爲し、之を復王の像として不朽の生命にて輝く者と顯し給へり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン

生神女讃詞

純潔なるものよ、求む、爾の子の前に母の勇敢を有つ者として、我等の爲に同族に適ふ慮を爲すを厭ふ勿れ、我等信者は獨爾を慈憐なる轉達者として主宰に進むればなり。

第六歌頌

イルモス、救世主よ、我を浄め給へ、我が不法多ければなり、祈る、我を惡の淵より引き上げ給へ、我爾に呼ばればなり、吾が救の神よ、我に聴き給へ。(楽譜は次ページ)

3) 

きゅう世主やわが不法は多しいのるわれをき
よめたまえわれを惡の淵よりひきあげたまえ
われ汝に呼べばなりわが救いの神やわれに



きぎたまえ
附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストスよ、悪の魁は木を以て厲しく我を墮したれども、爾は十字架に上りて、更に厲しく彼を墮し、辱しめて、陥りし者を復活せしめ給へり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストスよ、爾は墓より輝き出でて、憐をシオンに垂れ、慈憐なるに因りて、爾が神聖なる血を以て、其舊を易へて之を新にし、今其中に於て世世の王と爲り給へり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン

生神女讃詞

潔き神の母よ、願はくは我等は爾の祈祷に因りて甚しき罪惡より脱れて、爾至淨の者より言ひ難く人體を取り給ひし神の子の神聖なる光照を受けん。

◇小連禱

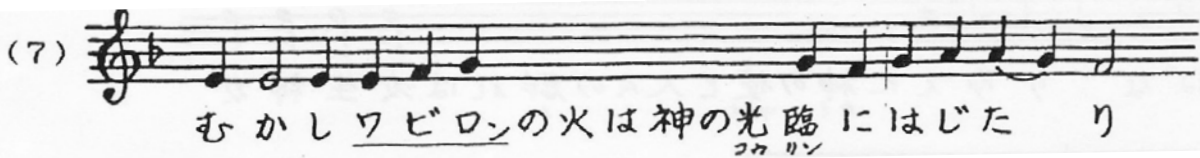
小讃詞、第八調。

大仁慈なる主よ、爾は墓より復活して、死せし者を興し、アダムの復活せしめ給へり。エワは爾の復活を樂しみ、世界の極は爾が死より興きたるを祝ふ。

<同讃詞は省略>

第七歌頌

イルモス、昔ワフィロンに於て火は神の降臨に慙ぢたり、故に少者は爐に在りて、花園に歩むが如く祝ひて歌へり、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。(楽譜は次ページ)



附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストスよ、爾の光榮なる謙虚、爾が貧窮の神妙なる富は諸天使を驚かす、彼等は、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらると、信じて呼ぶ者を救はん爲に、爾が十字架に釘せらるるを見ればなり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

爾は神聖なる降臨にて地獄に光を満たしに、曾て蔽ひたる闇冥は逐はれたり。故に古世よりの囚人は復活して呼ぶ、吾が先祖の神は崇め讃めらる。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン

聖三者讃詞

我等は爾萬有の主、唯一の獨生の子の唯一の父を正しく傳へ、又爾より出づる唯一の義なる神、爾と同一性同永在なる者を承け認む。

第八歌頌

イルモス、ハルデヤの窘迫者は怒に堪へずして、敬虔の者の爲に爐を七倍熱くしたれども、上の力にて其救はれしを見て、造物主と救世主に呼べり、少者よ、崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、萬世に尊み崇めよ。(楽譜は次ページ)

3)

ハルデヤのくるしめびと はいかりにたえずして

敬虔のもののために炉を七倍あつした れどもうえ
ケイケン イロリ ヒチバイ

のちからのこれをすくをみて造物主と救世主に
ゾウゾウ ツクシ ヌツクセイ

呼べりわらべやあがめほめよし さいやほめ

うたえよ民や万世にとよとみあがめよ

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

イイスの神性の至りて神妙なる力は神に合ふが如く我等の中に輝けり、彼衆人の爲に身にて十字架の死を嘗めて、地獄の堅堡を破りたればなり。少者よ、常に彼を崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、萬世に尊み崇めよ。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

釘せられし者は起き、高ぶる者は倒れ、陥りて破られたる者は改められ、朽壞は除かれ、不朽は華さけり、死に屬する事が生命に吞まれたればなり。少者よ、崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、萬世に尊み崇めよ。

父と子と聖神のいつなる神を讃め揚げん、今も何時も世世にアミン

聖三者讃詞

三光の神性、唯一の光明にて輝く者、三位一體の神、無原の父、父と一性の言、及び共に王たる一性の聖神を、少者よ、崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、萬世に尊み崇めよ。

◇生神女の歌を歌ふ、

我が心は主を崇め、我が霊は神我が救主を悦ぶ。

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずに神ことばを生みし実の生神女たる爾を崇め讃む。

第2句 その婢の卑しきを顧み給へり、今より萬世我を福なりと言はん、

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え……

第3句 権能を持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、

其の名は聖なり、其の憐れみは世世 彼を畏るる者に臨まん

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え……

第4句 其の肘の力を表して、心の驕れるものを散らし給へり、

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え……

第5句 権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、飢うる者を善に飽かせ、富める者をむなしく帰らせ給へり。

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え……

第6句 其の僕、イズライリを納れて、我が先祖に告げしが如く、

アウラムと其の裔を世世に憐れむ事を記憶し給へり、

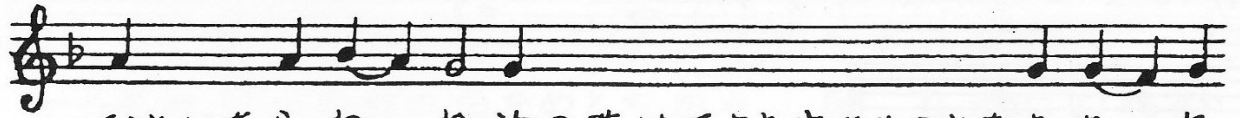
(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え……

第九歌頌

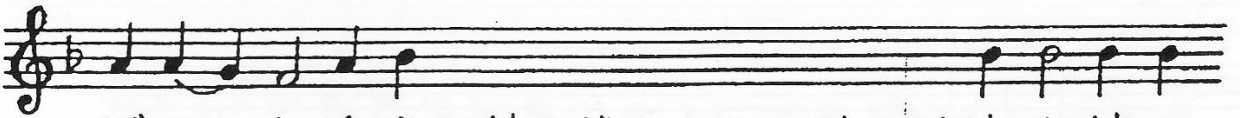
イルモス、天は懼れ、地の極は驚けり、神は身にて人人に現れ、爾の腹は天より廣き者と爲りたればなり、故に天使と人人の群は爾生神女を崇め讃む。



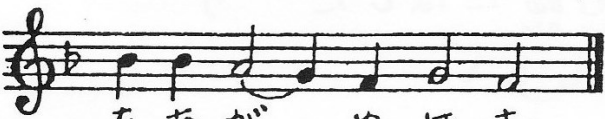
天はおそれ地のはてはおどろけり神は身にてひと



びとにあらわれ汝の腹は天より広きものとなりたれ



ばなりゆえに神の使と人々の群れは汝生神女



をあげめほむ

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

神の言よ、爾は神の無原なる性にて單一なる者にして、肉體を受くるに因りて合せられたる者と爲り、人としては苦を受け、神としては苦に與らざる者と止まり給へり。故に我等爾を分離なく混淆なき二性を有つ者として崇め讃む。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

至上なる主よ、爾は諸僕に降り、其性を以て人と爲りしに因りて、己の本性の父を神と名づけ、墓より復活して、地に生るる者の爲に本性の神及び主宰を恩寵の父と爲し給へり。我等衆彼と偕に爾を崇め讃む。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世にアミン

生神女讃詞

嗚呼童貞女、神の母よ、爾は天然の法に超ゆる者と顯れて、仁慈なる父が萬世の先に生みし神言を身に生み給へり。彼は肉體を衣たれども、我等は今彼を悉くの肉體より至りて上なる者と承け認む。

→通常部分へ戻る P29

◇ 小聯禱

「主我等の神は聖なり」

【差遣詞】

8 調

【讃揚歌とスティヒラ】

およそいぎあるものは主をほめあげよ 天より主を
ほめあげよ 至と高きにかれをほめあげよ ほめ
うたはなじかみに帰す そのことごとくの神使や
かれをほめあげよ そのことごとくの軍やかれをほめ
あげよ ほめ歌はなじかみに帰す

【定規のトロパリ】

【重連禱、増連禱】 早課の終わり。発放詞。

一時課

<一時課の変更箇所は、トロパリ、コンダクのみ>